

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

9月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告は5月以降ありません。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数2,996件（前月比1.68、前年比2.38）でした。前月比・前年同月とも多くなっており、手足口病の急激な増加によるものと思われます。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数246件、前月比2.6、前年同月は報告がありませんでした。8月の96件を底値として、6、7月の報告数に戻りました。例年は9月にピークがありますが、今年は4月（1128件）をピークとしています。昨年ほとんど報告がありませんでしたので、今年は多くなるのではと予測をしていましたが、ピークが4月に早まっただけで、累計の報告数は一昨年と大きくは変わらないようです。菊池72件（定点あたり14.40）が最も多く、八代52件（同13.00）、人吉21件（同7.00）と続いています。山鹿、阿蘇を除いて県下から報告があります。1歳が90例ともっとも多く、0歳・2歳が続いています。4歳以降の報告は少ないようです。また6歳まで報告があります。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数48件（前月比1.5、前年比2.1）です。6・7月にやや多かったのですが、この2ヶ月を除けば、今年は50件前後の報告が続いています。水俣からの報告が13件（定点あたり6.50）と多く、山鹿6件（同3.00）が続いています。1歳（22件）を中心としています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数30件（前月比0.9、前年比0.4）で、ここ数年ではもっとも少ない報告が続いています。1月から7月は100件前後の報告でしたが、8・9月は30件となっています。菊池11件（定点当たり2.20）からが多いようです。他の地区は、一桁の報告であり、阿蘇と人吉からは報告はありませんでした。6歳を中心として少数ずつではありますが広い年齢層から報告があります。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数715件（前月比1.6、前年比1.9）と昨年に似た推移です。2月以降500件前後の報告で推移しています。菊池の175件（定点当たり35.00）、有明128件（同25.60）、八代90件（同22.50）、御船52件（同17.33）に多いようです。全地域から報告があり、阿蘇（2件）と水俣（6件）を除けば、各地から二桁～三桁の報告数があります。1歳2歳を中心とし、全ての年齢層からの報告があります。
5. 水痘 : 報告数18件（前月比0.9、前年比0.6）と、一昨年からつづいていた400～500件の報告も、昨年3月以降減少し、昨年5月以降は100件前後の報告で推移しています。定点当たり報告が1.0以上あるのは、山鹿2件（定点あたり1.00）だけです。熊本で8件（同0.50）以外は、1～2件の報告であり、半数の地区からは報告はありませんでした。2014年から定期化されていますが、それでも1～6歳に、11件の報告があります。また7歳以上でも7件の報告があります。VPDですので、接種勧奨が必要かと思われます。阿蘇・御船・八代・水俣・天草からの報告はありませんでした。
6. 手足口病 : 報告数1,517件（前月比1.9、前年比19.7）と、大きな流行ではありますが、報告数のピークが、一昨年の6月から3ヶ月遅くなっただけかもしれませんが、今後の推移には注意が必要です。菊池420件（定点あたり84.00）が最も多く、次は宇城の178件（同44.50）、御船111件（同37.00）、八代124件（同31.00）となっています。阿蘇と水俣を（報告なし）除く、その他の地区も定点当たり二桁の報告があります。1歳の628件が最も多く、0歳から4歳まで、三桁の報告があります。

7. 伝染性紅斑 : 報告数2件(前月比0.2、前年比0.7)と、昨年5月以降少ない報告でしたが、今年になって5月、7月、8月と報告数が二桁に増加していましたが、再び9月は2件の報告でした。熊本市と宇城から1件ずつ、1歳と3歳の報告でした。
8. 突発性発疹 : 151件(先月比1.5、前年比1.0)と、ほぼ例年通りの推移です。菊池の32件(定点当たり6.4)と熊本62件(同3.88)、有明19件(同3.80)が目立ちますが、阿蘇をのぞき他の地域でも、定点あたり1~2件の報告があります。年齢は1歳以下がほとんどですが、2歳以上でも8件の報告がありました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数102件(前月比2.0、前年比0.3)先月からはやや増加していますが、例年に比べて報告は少数です。八代27件(定点あたり6.75)、天草17件(同4.25)に多いようです。1歳を中心とし、0歳から3歳を中心とした流行です。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数15件(前月比0.9、前年比2.5)と、7月以降二桁の報告が続いています。少数ですが、ほぼ県下からの報告があり、また0歳児を除く年齢層からの報告があります。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数18件 前月比1.2、前年同月比1.3と微増しています。すべて熊本からの報告です。年齢別では15歳~70歳代に少数発症していますが、3、4歳にそれぞれ1件が報告されています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数67件(前月比1.0、前年同月比1.0)で、前月比・前年同月比ともに変化ありませんでした。男女別は男性は44件、女性は23件でした。年齢別では男性は20~70歳以上、女性は15~54歳にみられていました。地区別件数は、熊本市が55、他は有明が6、八代が2、御船が2、宇城が2でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数21件(前月比1.1、前年同月比1.2)で、前月比・前年同月比共に微増しており、男女別は男性が7件、女性は14件でした。年齢別では男性が25~69歳、女性は20~70歳以上と、特に女性で幅広い年齢層にみられていました。地区別件数では熊本市が9、菊池が7、八代が4、御船が1で熊本市以外は全件女性でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は6件(前月比0.4、前年同月比0.5)で、前月比・前年同月比は共に半減でした。男女別では男性が4件、女性が2件で、年齢別では男性は20歳~34歳、女性は30歳~54歳にみられていました。地区別件数では熊本市が5、宇城が1でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数は19件(前月比0.8、前年同月比1.0)で、前月比・前年同月比は共に著変ありませんでした。男女別では男性が14件、女性は5件で、年齢別では男性は20~54歳及び70歳に、女性は15~49歳でした。地区別件数では熊本市が16、有明が2、宇城が1でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数は12件（前月比：0.9、前年同月比：0.7、男女比：4/8）と減少傾向でした。熊本(4)、有明(3)、山鹿・菊池・阿蘇・人吉・天草(各1)でした。年齢分布としては70歳以上(9)、55-59歳、60-64歳、65-69歳(各1)と高齢者に多く認められました。

▼例年より少なめの報告数でした。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は4件（前月比：4.0、前年同月比：4.0、男女比：4/0）と増加傾向でした。熊本(3)、有明(1)でした。年齢分布としては1-4歳、54-59歳(各1)、70歳以上(2)でした。

▼例年並みややや多めの報告数でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は1件（前月比：0.5、前年同月比：-、男女比：1/0）で減少傾向でした。有明(1)でした。年齢分布としては70歳以上(1)でした。

▼今年度は例年より多めの報告数が継続しています。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎：

報告数は1件（前月比：-、前年同月比：-）で久しぶりの報告でした。人吉(1)でした。年齢分布としては70歳以上(1)でした。

▼例年並みの推移となっています。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数は3件（前月比：-、前年同月比：-）と増加傾向でした。熊本(3)で5-9歳、25-29歳、30-34歳(各1)でした。

▼例年より増加傾向にあります。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼例年より少ない報告数です。

4. クラミジア肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼例年より少なく、引き続き発生報告がありません。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼昨年同様にほぼ報告はありません。

届け出対象感染症

1類感染症：報告はありませんでした。

2類感染症：結核 30件

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 3件

4類感染症：レジオネラ症 5件

日本紅斑熱 3件

A型肝炎 1件

5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌感染症 1件

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件

アメーバ赤痢 1件

播種性クリプトコックス症 1件

破傷風 1件

梅毒 18件

百日咳 5件

新型インフルエンザ等感染症：新型コロナウイルス感染症 2,066件